

実践のまとめ（第2学年 社会科）

村上市立岩船中学校 教諭 小田 駿介

1 研究テーマ

多面的・多角的に考察し、社会的事象に対して自らはたらきかける生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

今、私たちの目の前にいる生徒が将来生きる社会は、「Society5.0」の到来、グローバル化の進展など、多様化、複雑化が加速的に進み、予測困難な社会へと向かっている。「何をどれだけ知っているか」ではなく、それらを使って、他者と関わりながら、自ら課題を解決していく力が求められていると考える。

そうした社会状況を踏まえ、新学習指導要領(H29告示)には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、それぞれの視点が示された。「深い学びの視点」では、「社会的な見方・考え方」を用いて課題を追究したり、解決したりする活動が不可欠であること、多面的・多角的な考察や広い視野からの構想などを通して、社会の中で汎用的に使うことのできる概念等を獲得させることが重要と示されている。

そこで、研究テーマを「多面的・多角的に考察し、社会的事象に対して自らはたらきかける生徒の育成」とした。社会的事象を様々な側面、立場から見たり考えたりする学習に重点を置き、そこから得られた様々な情報や意見を踏まえて自分はどうか考えるのか、自分ならどうするのか、社会としてどうしたらよいかを考え、選択・判断する力を育みたい。こうした学習の積み重ねが、公民としての資質・能力の基礎の育成につながると考える。

(2) 研究テーマに迫るために

① 未だ確定せず、その賛否が問われている社会的な課題を用いた単元構成の工夫

生徒の知的好奇心や探究心を高め、交通・通信の整備が人々に与える影響を考察、追究していく態度や能力を育むために、現在、行政・経済界を中心に開通が熱望されている四国新幹線の開通の賛否を問う課題を、単元をまとめる課題として設定する。前時までに学んだことや追究学習・生活体験で得たものなどを活用し、主体的に選択・判断するために、現段階で答えが出ていない事象を取り上げることが有効であると考え。

② 多面性・多角性を意識して思考させるための工夫

四国新幹線の開通の賛否を判断するためには、様々な側面の情報(多面性)と様々な立場(多角性)の考えを整理・関連づけて思考する必要がある。そのために、以下の手立てを講じる。

○側面や立場を分類する活動

発言や板書のグルーピング、思考ツール上での情報整理の際の見出し作りなど、どの側面の情報なのか、どの立場からの意見なのか可視化する活動を、単元の中で継続的に実施する。以下、本単元における側面や立場の例である。

- ・四国内の地方と都市における雇用や生活実態の違い。(地理的側面)
- ・過去に新幹線を導入した地域での雇用や生活の変化。(歴史的側面)

- ・人口減少が進む四国において、地域社会に与える影響。(社会的側面)
- ・四国新幹線を開通させることによる地域社会への経済効果等。(経済的側面)
- ・四国新幹線はどの程度求められているのか。または開通のためにどのような制度が必要か。(政治的・法的側面)
- ・四国新幹線の導入に賛成、反対の立場。
- ・地域住民、利害関係者、各種産業関係者、県外の人々、国や地方公共団体。

○グループごとに側面や立場を明確にし、追究する活動

グループごとに側面や立場を明確にし、情報収集を行う。「四国の○○面(○○の立場)から考えると、新幹線は□□」というようにキャッチフレーズをはじめに作らせることで、班の側面や立場を意識させる。また、他の側面や立場の班との意見交流による考えの再構築により、多面的・多角的な思考につなげたい。

(3) 研究テーマにかかわる評価

本研究では、2つの評価方法を用いる。①ワークシートや振り返りシートの記述の内容から、多面性や多角性の深まりがあるか、それらを受けて自分なりの判断や考えが書いているかを見取る。②アンケートで社会に関わろうとする意識の変化を見取る。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

中国・四国地方 ～都市と農村の変化と人々の暮らし～ (新しい社会 地理 東京書籍)

(2) 単元の目標

- 中国・四国地方に関する様々な資料を活用しながら、自然環境や気候、産業の特色を捉え、それらと人口の分布や都市・村落の立地との関係を理解する。
- 交通網の整備による時間距離の短縮が、中国・四国地方の人々の生活や産業にどのような影響や変化をもたらしたかを多面的・多角的に考察し、表現する。
- 新たな交通網が整備されることへの関心を高め、その影響について主体的に追究する。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○中国・四国地方の地域的特色を、自然環境や産業・歴史の側面と関連付けて理解している。	○交通網の整備の背景や人々の生活への影響を、適切に表現したり、他者に説明したりしている。	○交通網の整備が人々の生活に与える影響に基づき、単元を貫く課題に対する答えを予測し、見通しをもって自分の考えを深めようとしている。
○交通網の整備によって、産業の変化や人口の流入が生じることを資料から適切に読み取っている。	○単元を貫く課題に対して、多面的・多角的に考察し、自分の意見をまとめている。	

(4) 単元と生徒

① 単元について

本単元は、『中学校学習指導要領(平成 29 年度告示)』の地理的分野の内容 C「(3)日本

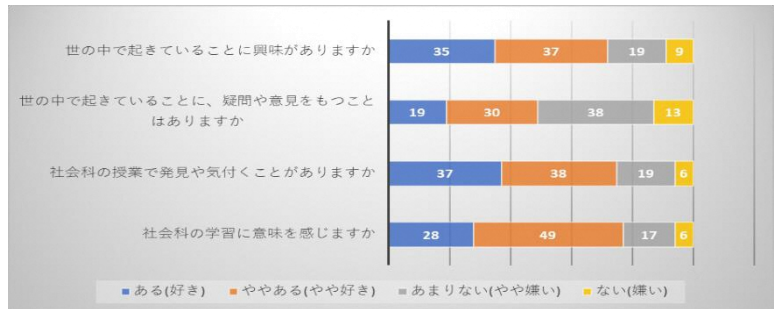
の諸地域」にあたるものである。この単元は、5つの考察の仕方を基にして、空間的依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、地域的特色や課題についての理解を深め、多面的・多角的に考察する力を育むことを目標としている。

中国・四国地方には、地方中枢都市である広島市を中心として、山陽新幹線の沿線や瀬戸内工業地域が広がる瀬戸内海沿岸に人口が多く集まり都市化が進み、過密地域が見られる。その一方で、鳥取県や島根県、高知県といった人口が少ない県もあり、特に山間部や離島では過疎地域が見られる。このような地理的事象が見られる中国・四国地方では、本州四国連絡橋や高速道路の整備により、都市と村落の時間距離を縮めることで、地域の活性化につながることを期待されてきた。

本単元では、生徒の知的好奇心や探究心を高め、交通・通信の発達が人々に与える影響を考察、追究していく態度や能力を育むために、行政・経済界を中心に開通が熱望されている四国新幹線の開通の賛否を問う課題を、単元をまとめる課題として設定する。北陸新幹線をはじめ、様々な新幹線が開通、または開通予定が立っている中、まだ全国で唯一開通が決定していない新幹線である。これまでの学習、あるいは単元の中で培っていく社会的な見方・考え方を働かせて考察、判断することで、中国・四国地方の特色や課題についての理解を深め、多面的・多角的に考察する力を育むことを目指す。

② 生徒について

右記のように、世の中で起きていることへの関心が高い。社会科を学ぶ意義を感じている生徒も多い。自発的な発言も多く、教師の発問に対する反応も良い学級である。



一方、授業中に集中力が切れることやメリハリがない場面が多々ある。また、与えられた課題には取り組むが、自ら課題を見つけ、考察し、追究していくことが苦手な生徒が多い。加えて、飽きやすい生徒も多いため、本単元においても、どれだけ生徒の興味や疑問を喚起し、課題を自分事のできるかが重要になると考える。また、世の中のことに興味があるが、疑問や意見をもつことが少ない様子から、一般社会を遠い存在に捉えていることが予想される。実際の社会的事象について考察する単元構成で、生徒の知的好奇心を揺さぶりたい。

(5) 単元の指導計画と評価計画 (全6時間、本時6/6時間)

次	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の自然環境や産業の特色 中国・四国地方の人口分布の特色 	<ul style="list-style-type: none"> ◎中国・四国地方は、どんなところ？ ・地形・産業・人口分布の主題図づくりを通して、中国・四国地方の特徴を捉える。 ・人口減少図から、四国が抱える課題を捉える。 	<p><知・技> 資料から、中国・四国地方の特色を読み取り、人口・自然・産業の側面から白地図にまとめている。</p> <p>【ワークシート】</p>
<p>単元を貫く課題 : 人口減少が進む中、地域を活性化させるために必要なことは何か？</p>			

2	・過疎地域の課題と現状	◎なぜ境港市は人口減少に歯止めをかけられたのだろうか？ ・人口ピラミッドなどの資料から、過疎地域の現状と課題を考える。 ・境港市の町おこし事例から、過疎地域における地域活性の工夫を捉える。	<思・判・表> 過疎地域の課題を踏まえ、過疎地域における地域活性化の工夫について表現している。 【ワークシート】
3	・都市部の特徴と人口集中の要因	◎なぜ広島市に人口集中するのか？ ・山陽地方の学校、企業、商業情報等から、広島に人口が集中する理由を考える。	<思・判・表> 広島市への人口集中の要因を、資料をもとに、適切に考え、表現している。【ワークシート】
4	・交通網の整備により生じた、中国・四国地方の人々の生活の変化	◎本州四国連絡橋は中国・四国地方にどんな変化を生んだのか？ ・四国-本州間の物流の変化、観光客数や通勤・通学者数の増加の背景などを調べ、交通網の整備と産業・生活の変化との関わりを考える。 ・新幹線整備地図から、四国に新幹線がないことを理解する。	<思・判・表> 交通網の整備が生活へ与えた影響について、資料をもとに適切に表現している。 【観察・ワークシート】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 単元をまとめる課題： 四国新幹線の開通に賛成か、反対か？ </div>			
5 (2) 本時 2/2	・新たな交通網の建設と地域の活性化	◎四国新幹線の開通に賛成か、反対か？ ・追究班ごとに側面や立場を明確にして、情報を整理する。 ・交流班での家族歓談を通して、様々な側面や立場の意見を共有する。 ・四国新幹線の開通の賛否について、最終判断をする。	<思・判・表> 資料からの情報や既習事項、他の班との交流、生活経験を根拠に、四国新幹線の開通の賛否について、意見をまとめている。 【観察・ワークシート】

4 本時の展開

(1) ねらい

「四国新幹線の開通に賛成か、反対か？」という課題に対して、根拠や立場を明確にして判断し、自分の考えを表現することができる。

(2) 展開の構想

- 四国新幹線の必要性について、その地域の未来を想像しながら、自分なりの納得解を考えさせる。【主体的な学び】
- 四国新幹線に関する側面や立場を明確にし、班・全体で対話しながら、情報を整理し、判断させる。【対話的な学び】
- 様々な側面や立場からの意見や情報に触れさせることで、新幹線の開通が地域に与える影響について多面的・多角的に再考させる。【深い学び】

(3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
5分	・課題を確認する。	○四国新幹線に関するネット記事を提示し、穴埋めさせる。 ●新幹線。	○スライド用意「○○のない四国には住みたくない。」

	<ul style="list-style-type: none"> 考える上での側面や立場を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○四国新幹線について考える側面や立場を確認する。 ●【側面】観光、雇用、流通、通勤・通学、人口流出入… ●【立場】住民、観光客、企業、地場産業… 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習課題：四国新幹線の開通に賛成か、反対か？ </div>			
33分	<ul style="list-style-type: none"> 追究グループで情報を最終確認する。 交流グループで「家族歓談」を行う。 次男役が「家族歓談」の結果を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○追究グループごとに、意見の最終確認をさせる。 ○「四国在住の家族」の設定で、「家族歓談」を行う。 祖父(住民)／父(地場産業)／母(観光業)／長男(高校3年生)／次男(中学2年)(司会・最終意見の判断役) ●「△△というデータがあるから、四国の○○面(○○の立場)から考えると、四国新幹線の開通に□□だな。」 ○話合いの内容を説明しながら、自分の判断を発表させる。 ●「○○の面や□□の面から述べていた。△△の立場の意見に説得力がありました。だから、四国新幹線の開通に☆☆という判断になりました。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの立場の意見をメモさせながら、話合わせる。 □思 資料をもとに発表したり、他の意見に対して質問や反論等をしたたりしている【観察】
12分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の最終的な判断を考える。 振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人で最終的な結論を考えさせる。 ○全体で発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> □思 資料からの情報や既習事項、異なる立場との意見交流、生活経験などを根拠に、学習課題について、意見をまとめている。【ワークシート】

(4) 評価

- A 複数の側面や立場の情報や意見を根拠に、四国新幹線の開通の賛否について表現している。
- B 単一の根拠であったり、因果関係があいまいであったりするが、四国新幹線の開通の賛否について表現している。

5 実践を振り返って

(1) 授業の実際

本時は、前時の追究班での活動で表出した意見をもとに、交流班で意見内容・意見の根拠を述べ合い、意見交流することをとおして、最終的な自分の考えを再構築する時間とした。各班、司会を担当する中学2年生役の生徒を中心に話し合いを進めた。次の表1は、抽出グループの話し合いの様子(一部)である。

表1 抽出グループの様子

～それぞれの立場や考えを伝え、質問など一通り交流したのち～ 祖父:(資料を見せながら)作るのに1.58兆円かかるって資料があるよ。1年の経済効果は169億円だから、もとを取るには…。 次男:100年くらいだね。 父 :いらなくない? 母 :でもその資料ってほんとなの。 祖父:あくまで予測計算資料だけど、そんなに長く使わないと数字的に利益にならないものは、四国にはいらんんじゃない? 兄 :でも、長く使うのは若い世代なんだから、将来的にはあっていいんじゃないかな。(資料を指さしながら)観光も就職にも効果あるってデータあるし、観光業や企業にもプラスが大きいって言ってたよ。 次男:観光メインで考えるなら、それは今ある飛行機とかでいいんじゃない? 父 :車でも行けるしね。 母 :でも車に乗れない人のことはどう考えるの。(資料を指さしながら)空港の数も多いわけじゃないよ。 次男:ああ、確かに。 母 :車に乗れない人が移動できるように、新幹線が有効だと思う。 次男:(資料を見ながら)確かに。でもやっぱり建設のお金かかるよね。 母 :確かにお金はかかるけれど、移動が楽になったり手段が増えたりするのはいいでしょ。 父 :ということは逆に新幹線できたら空港使わなくなるってことだね。 次男:今ある交通網が利用されなくなるってことか。 父 :今、電車とか飛行機使っている人もいるんだから、わざわざ新幹線つくる必要性はないと思う。 祖父:新幹線駅の周りにも新しい店ができて、昔ながらの店とかきつきかもね。 兄 :でも新幹線ができて、人が来ること自体はいいでしょ。 父 :(資料を見せながら)高齢者にとって切符購入や乗り換えが複雑になったって北陸新幹線のアンケート結果あるよ。もともとあったものが使いやすく、新しいのは面倒ってことだよ。
--

この班のように、多くの班が一方的な意見の伝え合いではなく、様々な側面から意見を交換していた。これは、自分の意見を話す際は、ワークシートや根拠資料を提示して話すことを強調し、根拠をもって自分の意見を話すよう促したことや、前時まで話し合う材料や役割設定による必要感を十分に確保できていたからだと考える。次の表2は抽出グループの最終判断、表3は別グループの最終判断である。

表2 抽出グループの結論

結論から言うと反対。賛成側の意見は、東京までの移動が4時間しかかからなくなる。四国4県を回っても1時間なので、確かに移動時間は減るし、移動自体が楽になると思う。それにより、外出する人も増えると思う。若者にとっては進学や就職にも便利だし、移住にも便利などの意見があった。だけど、やはり巨額の建設費がかかるので、高齢者が多い四国は違う使い道をした方がよいと思う。四国の人口ピラミッドをみると、高齢者割合が多い。新幹線駅が通ると切符購入も複雑になり、高齢者には難しいのではないかと。新幹線を使うとなると、今あるたくさんの交通網が使われなくなる可能性も大きいと思う。新たに新幹線駅を作るなら、土地や今ある伝統的な景観、産業の問題も出てくる。だから、反対の意見になった。
--

表3 別グループの結論

四国新幹線に賛成。現状、本州に車や船で行くのに時間がかかりすぎてしまう。新幹線ができれば、新大阪まで2時間、東京まで4時間となるので、短時間で大都市に行くことができる。四国内も1時間で4県移動できるようになる。ストローク現象の可能性もあるけれど、本州に家族や孫がいるおじいちゃんたちもより短時間で会えること、観光客が増えることや移住による人口増加など四国にとってプラスの面の方が大きいと判断した。
--

(2) 研究テーマにかかわって

情報や考えの分類・可視化を継続して行ったことで、交通・通信の発達が生徒の生活に与える影響を、表1～3中の■で示したような観光・雇用・流通・通勤・通学・人口流入・経済効果・費用などの様々な側面を考えさせることができたと思える。ワークシートの記述集約は次の表4の通りである。

表4 ワークシートの記述集約

3つ以上の側面で結論	2つの側面で結論	1つの側面で結論	結論が出せなかった生徒
25	6	2	0

また、立場を指定して追究させ、異なる立場と交流する手立てを講じたことで、表1～3中の波線部のように、多角的に考察することにつながったと考える。しかし、複数の立場に拡散しすぎて、最終判断する際に、どの立場に寄り添って考えているか不明確な生徒がいたと協議会で話題になった。また、自治体や利害関係者目線の考えなど、役割になかった立場で思考させられなかったことも課題である。

授業後のアンケートの数値変化は表5の通りである。現実社会で議論されていることに対し、多面的・多角的に考察したことで、意識の変化が表れたと考える。また、振り返りにも「様々な情報や立場のことを考えて、自分で判断すること」「その地域のことを考えること」「将来的にどうなのか考えること」などについて記述する生徒が見られた。

表5 アンケート数値の変化(肯定的数値の変化)

【項目】世の中で起きていることに疑問や意見をもつことはあるか。	
【授業前】49%	【授業後】71%

(3) 今後の課題

四国新幹線の開通の賛否は、生徒にとって関心が高い社会的事象であった。それを、単元を貫く課題に設定し、追究→判断→追究→判断を繰り返していく単元構成にすべきであった。生徒がなぜだろう、調べたい、考えたいという思いを高め、追究していく中で社会的な見方・考え方を習得できるような課題を軸とした単元構成を目指したい。また、「活性化」など捉え方が拡散しやすい言葉の定義付けや方向性の共有をした上で、単元や授業を構成していくことが大切だと感じた。